

おおいけ なかいけ
大池・中池

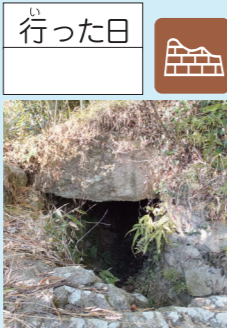
大池の水の出口から水路がつながって、田寺、辻井、今宿のかんがい用水として利用されています。昔、雨が降らず水不足になったときは、用水をめぐって争いが起こっていました。一関宗五郎の墓の上には、水の争いで手柄をたてて亡くなった3人の墓が建っています。



行った日 etc

きたやま こふん
北山古墳

道標のある山道を100mほど進むと、左側に「北山古墳」と書かれた木の柱があります。高さ2.3mほど土が盛られていて、横の穴からのぞくことができます。1400~1500年前のものではないかと思われます。この古墳の東北の方向の山のふもとにはたくさん古墳の跡があります。



行った日

きたやま どうひょう
北山の道標

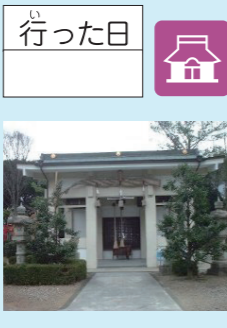
山道を進むと北山古墳があります。その途中に二つの道標があって、それぞれの面には、書写山、鹿谷道、ひろみね、ほけ山、たつの、むろつなどの地名が方角にあわせて彫られています。いずれも安政年間(1854~60)にここにおかれたものです。



行った日

たかおかしんじや
高岡神社

高岡神社は、蛤山の高岳神社(延喜式内社)から分かれた神社として明治4年(1871)におおたにちまのぼしようつたでらからまも大谷口という場所に移動されて、田寺村の守りがあがみになりました。そのため高岳神社と同じ、仲哀天皇・応神天皇など八つの神さまがまつられています。



行った日

つじいはいせき
辻井遺蹟

辻井廃寺の跡地から少し東の田んぼの中から、2千年から1万年前の土器・石器がたくさん発見されました。昭和15年(1940)には、考古学者の今里幾次先生が約4千年前の男の人の骨を発見しました。このことは新聞にも載ったので、この遺蹟が有名になりました。



行った日

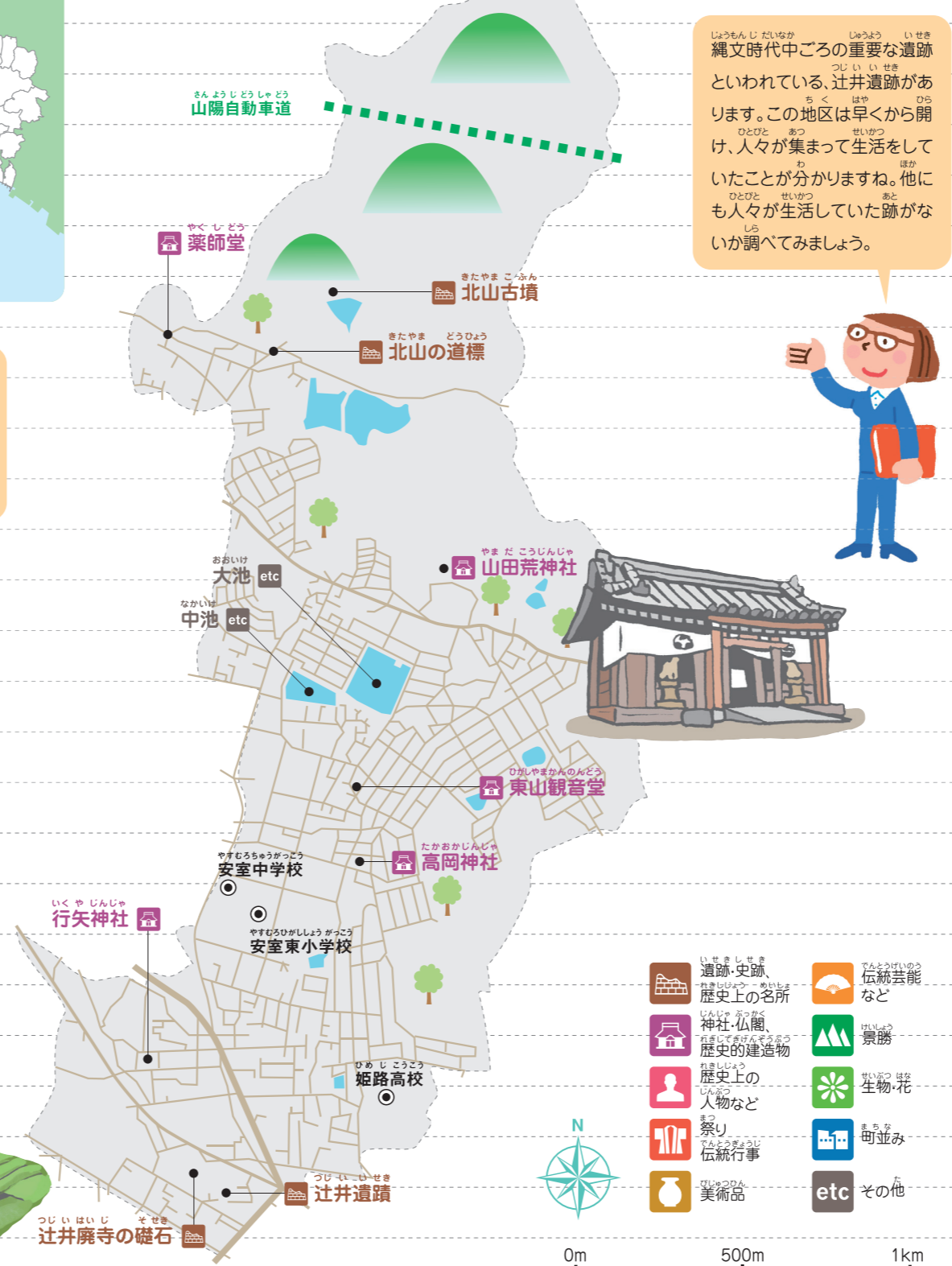


やすむろひがしちく
安室東地区

調べたこと、
分かったことを
書いてみよう!



やすむろひがしちく
14 安室東地区



縄文時代中ごろの重要な遺跡といわれている、辻井遺蹟があります。この地区は早くから開け、人々が集まって生活していたことが分かりますね。他にも人々が生活していた跡がないか調べてみましょう。



つじいはいせき
辻井廃寺の礎石

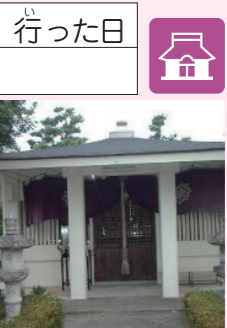
白鳳期のお寺の跡です。この石は大きな塔の中心となる基礎の石で、辻井字藤ノ木の田んぼの中に残っています。昭和10年(1935)ごろまでは、6間(約10m)四方の草地でした。草を掘る時、草地の土を利用して掘りおこした時に発見されました。



行った日

ひがしやまかんのんどう
東山観音堂

東山観音堂は、書写山円教寺から枝分かれした歴史があります。もとは、今の善覚寺の場所にありましたが、善覚寺を建てるために大永7年(1527)に東山へ移され、東山観音堂とよばれて、長い間村人たちに敬われていました。



行った日

やくしどう
薬師堂

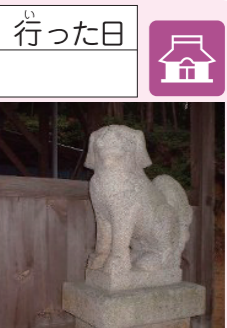
薬師如来像は木でつくられた高さ約72cmの像です。郷土の歴史を研究してきた大貫繁次先生によると、室町時代中ごろにつくられたものといわれています。この像は昔、高取山の西南(今の唐立団地の西)にあった長尾寺にまつられていました。毎年4月8日、れんげの花につつまれた供養が行われています。



行った日

やまだこうしんじや
山田荒神社

まつられているのは奥津彦命と奥津姫命で、火の神さまとして地区の人々から信仰されています。江戸時代の終わりごろ、天保年間(1831~45)に灯りをともし運動が始まってから約170年間、氏子が順番に毎晩、常夜燈の火をともし続けています。



行った日

いくやしんじや
行矢神社

『播磨国風土記』という本に「八丈岩山に因達神(射楯神)という神さまがおられるから、この山のあたりを因達里」と書かれています。山の南側の矢落村の人たちは、この神さまと南にある秩父山にまつられていた兵主神(大汝命)の二つの神さまを行矢神社におまつりました。



行った日